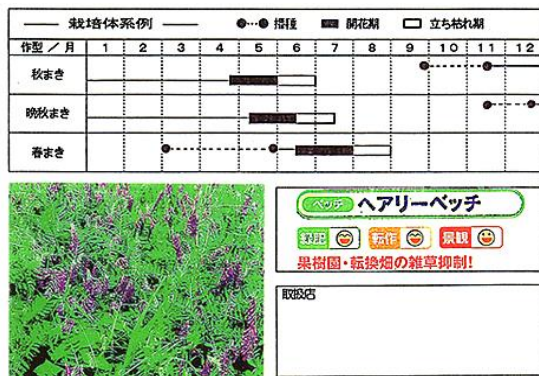


① ヘアリーベッチ

アレロパシー効果で雑草を抑える、今話題の品種！



○アレロパシーとは・・・

植物自身が根・茎・葉から放出する物質が、他の植物等に阻害的または促進的な何らかの影響を及ぼす現象。(他感作用)

●特性と利用法

- ・早生系で伸びが低いため、作業性が良い。
- ・早期に地面を被覆するので、雑草抑制効果が高い。
- ・マメ科のチツソ固定作用により、後作の減肥が可能。
- ・アレロパシー作用があり、除草剤の使用を軽減できる。
- ・従来品種より20～30日開花が早く、果樹の虫媒受粉に差しつかえにくい。(秋の早期まき)
- ・耐寒・耐雪性があり、緑地保全や果樹園草生栽培に最適。
- ・土壌被覆性に優れ、冬～春期間は季節風による耕土を保全します。
- ・4～5月に紫色に開花し、蜜源作物にも利用可能。
6～7月にかけて自然に枯れ、敷きワラ状になります。

●栽培ポイント

- ・播種期 ※遅まきは春先の生育不十分となる。

| | | |
|------|-----------|-------------|
| 秋まき | 9/末～11/中 | (開花4/下～5/末) |
| 晩秋まき | 11/中～12/下 | (開花5/上～6/中) |
| 春まき | 3/初～5/末 | (開花6/中～7/末) |

- ・播種量 ※バラまき、軽く覆土する。
4～5kg/10a

②カニガラ

●特性

作物にカニガラ肥料を使用すると土に良い菌が増えて木の粘りが良くなる。理由としてキチン・キトサン(カニガラ肥料・キトサン液)で良い菌(有用菌)も悪い菌(大腸菌)も増える。大腸菌が食べて糞をした物を有用菌は好んで食べるので大腸菌は必要である。有用菌は非常に弱いからキチン・キトサンに守られている。カニガラ肥料を使用することによって菌のバランスが合い作物の根をひろくはる事ができる。昔はトンボ・バッタが沢山いて、それが死ぬことにより(トンボ・バッタの羽には95・96%のキチン・キトサンがある)畑の土に入りキチン・キトサンの補充をしていたが化学肥料殺虫剤により昆虫をいなくしたので大腸菌ばかり増えて、根腐れをした土の中の病気が起こる。それを直すにはカニガラ肥料を与えたり、キトサン液を葉面散布して土を改良し、作物に直接かけてやることにより作物自体を強くする。

●施用方法

果実 10a当たり(20kg)